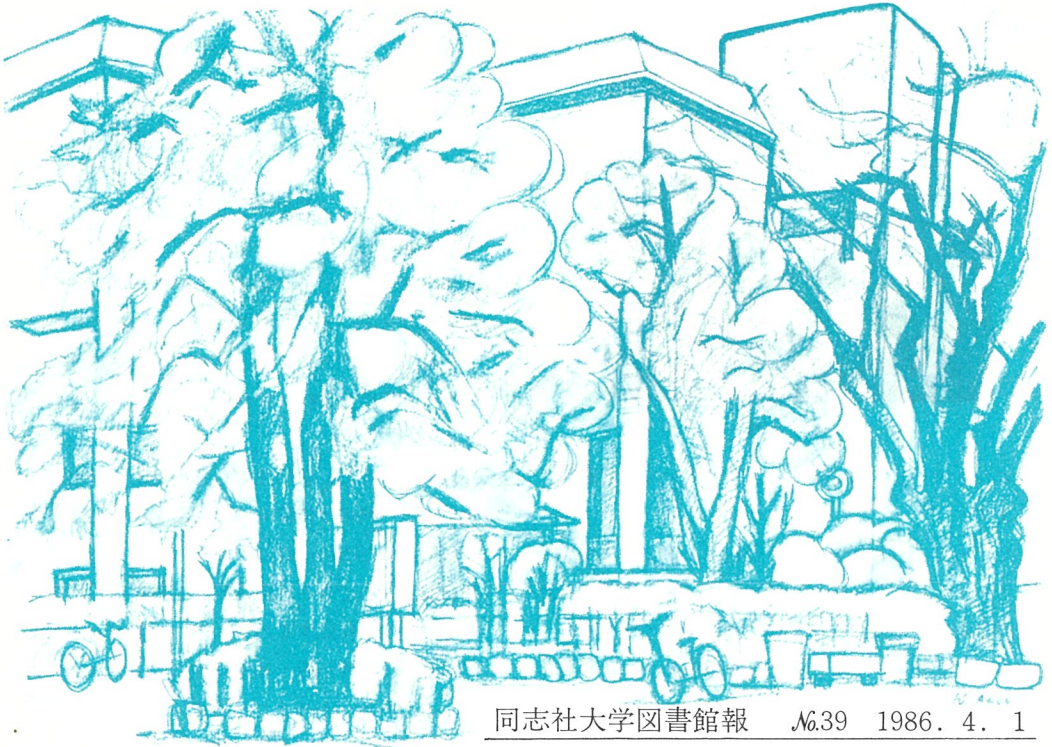


びぶりおてか



同志社大学図書館報 №39 1986. 4. 1

ラーネット記念図書館

庶務課長 西 田 逸 郎

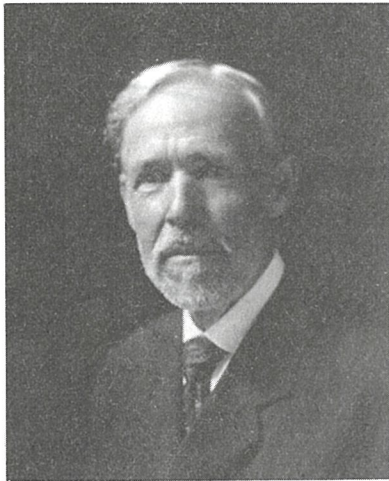
田辺校地の図書館は、「ラーネット記念図書館」と命名され、ここに新しく開館されることになりました。

この新しい図書館は、同志社創立当初より新島先生、デイヴィス先生とともに同志社教育に貢献され、今日の同志社に導かれた功労者の一人であるラーネット先生を記念して命名されたものであり、正面エントランス・ホール入口の頭上高く「Learn to live and live to learn」という先生の言葉が刻まれているゆえんであります。

この図書館は見た目には勿論のこと、多くの点において今出川校地の図書館とはちがった全く新しい図書館であります。'83.1.21付教育情報センター部門改善委員会答申を受けた'84.3.15の田辺校地整備実施計画により、1・2年次生の学生の学習を主目的とした図書館として規定されております。そしてさらに今出川校地の図書館の分館として位置づけられており、今出川・田辺と二拠点化しても利用者には最大限の便宜をはからなければならない、という観点から、図書館の二大機能、パブリック・サービスとテクニカル・サービスの内、前者パブリック・サービスに重点をおき、従来の図書館のようなテ

目 次

ラーネット記念図書館……………	1
新キャンパス(田辺校舎)の図書館……………	4
信行寺大悲尊像縁起絵巻……………	6
今出川図書館の検索方法が変わります……………	9
中野譜庫の意味・内容・経緯……………	10
実例を中心とした 資料のさがし方(29)……………	12
(主要5紙の変遷)……………	14
「特別研究図書費」による購入図書(2)……………	15
図書目録の刊行について……………	16



ラーネッド博士

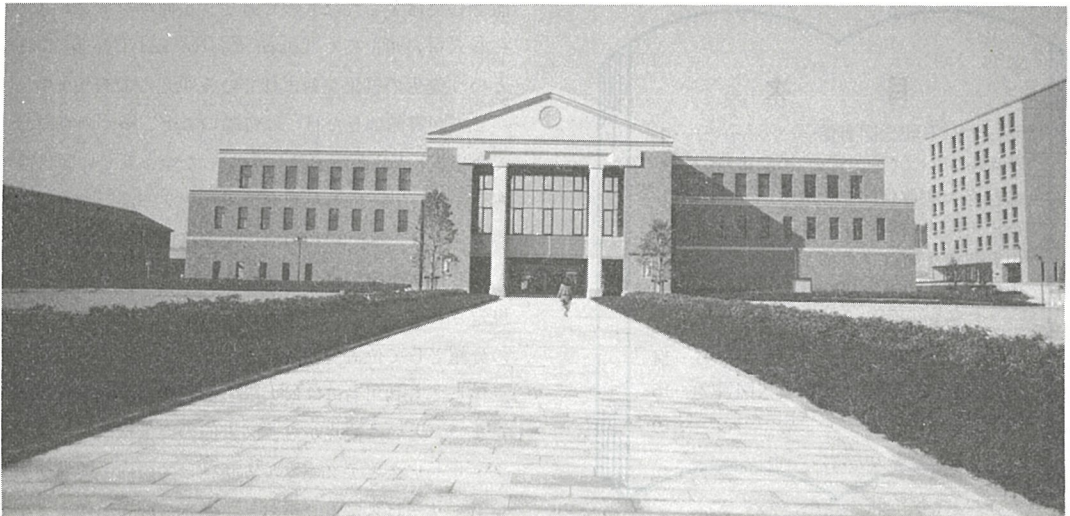
クニカル・サービス機能は殆んど持っていない図書館であります。

したがって、収集保管される資料は1・2年次生の授業カリキュラムに沿ったものが中心の、学習・教養のための資料であり、高度な学術資料や利用頻度の低いもの、今出川の図書館でいえば、閉架書庫に収納されるような資料は原則として所蔵されない、ということになります。

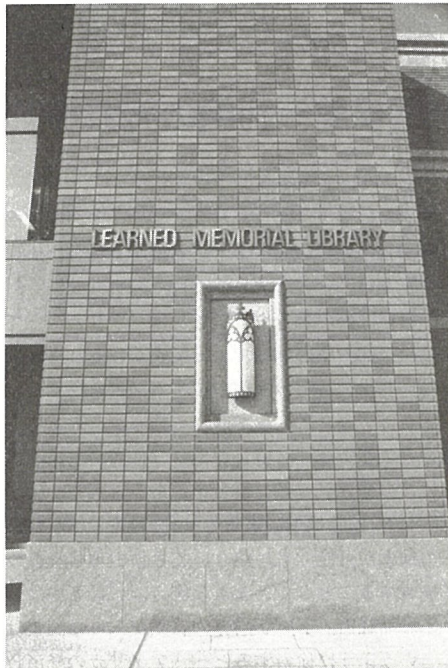
これらの資料の利用は、参考図書、一般資料、雑誌・逐次刊行物を問わず全面開架方式であります。開館当初は約4万冊ですが、10万冊まで全面開架方式で利用に供することができるよう設計されております。(この開架書庫以外に17万冊収容の書庫が、現時点では未仕上げですが、用意されており、将来多目的利用が可能です)今出川の図書館は建設当時いわれていた5万冊開架構想で設計され、運用されておりますが、昨今新しく開かれる

図書館は7～10万冊開架が大体標準であります。この全面開架方式の利点は言うまでもありません。利用者が資料に自由に接することが出来る、したがって館内利用は全く自由である云々…。しかしそれでも資料を館外へ持出す必要のある時は可成りの手続を要しましたが、ラーネッド記念図書館では、この貸出し手続は機械化され、簡略化されております。すなわち、利用者は今出川の図書館のように、「貸出証」と「ブック・カード」に必要事項を記入し、館員がチェックし、返却期日の押印等の事務処理をするという必要はありません。利用者の「図書利用カード」と図書をスキャナーでなぞるだけで貸出し手続は終了であります。また手続が簡略化されるだけでなく、貸出し予約、問合わせも簡易にできるようになりました。

以上のように、全面開架方式の採用、貸出返却の機械化によって利用は飛躍的に便利になったとはいえるものの、資料検索のための目録はどうなっているのか、今出川の図書館も含めて多くの図書館が従来そうしてきたようにカード目録を作成するのか、等の問題があります。カード目録はその繰込み・検索に慣れている人以外にはひきにくくもあり、かつまた、作成・編成には膨大な手数と時間がかかることは周知の事柄であります。索引が完備しておれば、一覧性のある冊子体目録の方がベターであるともいえます。しかし、冊子体目録は資料の増加に即時的に対応するのが困難であり、それなら機械可読目録(Machine Readable Catalog)以外は考えられないのではないかということになりました。ただ、MARCも単一(自)館での作成となるとハード・ウェア、システムとも全学のトータル・システムとのかかわりあい等に



ラーネッド記念図書館

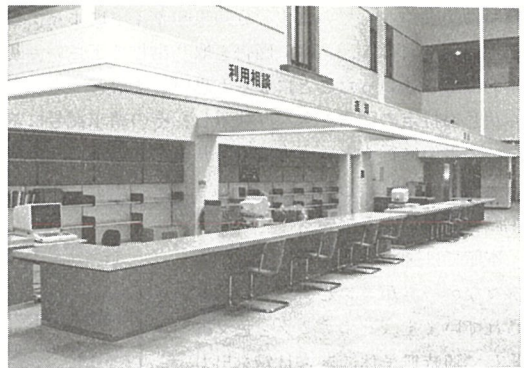


問題があり、かつまた書誌データの自館オリジナル入力の手間はカード目録の場合とあまりかわらないとも思われます。そこで、市販の書誌ユーティリティを利用してMARCを作成するのがベストであろうということになりました。そして、この同志社MARCの作成とともに請求記号ラベル・貸出し用のバーコード・ラベルの貼付等図書の装備も外部業者委託としたのであります。これにより館員はいつもパブリック・サービスに専念できる体制となったのであります。利用者は全面開架の書庫で資料をさがし、不明の場合はカウンターに問合わせば、館員がMARCで検索し、答える、という訳であります。また、相談する程でもなければ、MARCから打出したリスト(冊子目録)で検索することも出来るようになっていきます。近い将来、ターミナルを利用者用にも複数設置し、アクセスし易いソフトを開発し、利用者自らがキーをたたいて検索できるようにしたいと考えております。

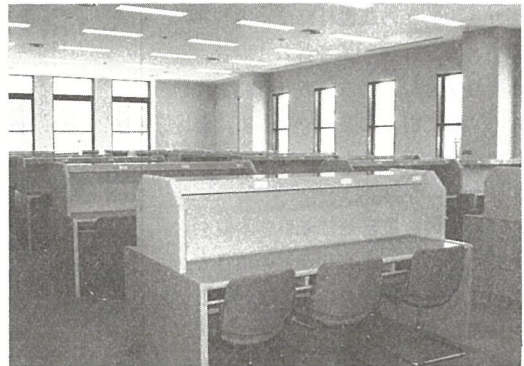
資料の検索については以上のとおりですが、資料の配置等については、(詳細は「利用案内」をご覧ください。)一般書、参考図書、雑誌類をそれぞれ区分し、さらに一般書を、人文科学・社会科学・自然科学の三部門に、そして洋書、新書・文庫、というように区分し、各フロアー、ブロック毎に配置しております。

以上ラーネッド記念図書館のソフト・ウェア、「内部システム」について述べてきましたが、ハード・ウェア、建物・施設についてはどうでしょうか。

田辺校地の正門に入って少し左に向いて、事務管理棟「副業館」を左手に見ながら真直ぐ正面に、いやが応でも目に入ってくる偉容、頭は国会議事堂、入口はパルテノン神殿の一部か、というのがラーネッド記念図書館であります。これはもう“百聞は一見にしかず”です。詳細は「利用案内」か、「びぶりおてか」(館報) No.37にまかせましょう。今出川で学ぶ3・4年次生の諸君も、教職員も、一度はおいで下さい。そして驚いて下さい。そして建設的なご意見をお聞かせ下さい。



メインカウンター



閲覧室



開架閲覧室

新キャンパス（田辺校舎）の図書館

ラーネッド記念図書館 利用の実際

“ラーネッド記念図書館オープン”。ここではこのラーネッド記念図書館（以下本館と称す）の主要システムの概略とそれに伴う利用の実際について紹介します。

Ⅰ. 所蔵資料の検索（図書資料の探し方）

すべての資料は開架方式で配架されています。まず自分が利用したい資料の種類・性格に従って、開架閲覧室、参考図書・雑誌室等に行きます。そこでは主題による分類順に図書が並んでいます。分類表やガイドによって当該主題個所に行き、自由に図書を取り出して下さい。基本的にはこういったことになるとは思いますが、一方、あらかじめ特定の図書をズバリ検索し、その請求記号に基づいて書架に行くという方法もあります。以下にその検索方法を紹介します。

(1)蔵書目録による検索

本館では図書一冊一冊についての様々なデータがコンピュータに入力されています。そのデータを色々編集して随時冊子体の蔵書目録を出力します（蔵書目録は目録コーナーにあります）。この蔵書目録は、書名（原書名等を含む）、著者名（編者、訳者等を含む）、被伝者（研究された人）等で引くことができます。全体の構成は下表のようになっています。

これらの蔵書目録は索引と本編を兼ねた形になっており、どの項目で引いても書名、著者名等の必要事項と請求記号が記載されています。目的の図書がみつければ、請求記号をメモして当該の書架へ行って下さい。

なお、雑誌・新聞についてはこの蔵書目録に収録されていません。別の雑誌・新聞リストに拠って下さい（以下の(2)、(3)についても同様）。

〈蔵書目録の構成〉

和書編	書名目録	本書名、各巻書名、別書名(カタカナ)
		翻訳書の原書名(ローマ字)
和書編	著者名目録	著者、編者、訳者、被伝者etc.(カタカナ)
		著者、編者、被伝者etc. (ローマ字：西洋人等の原綴のみ)
洋書編	書名目録(ローマ字)	
		著者名目録(ローマ字)

(2)コンピュータによる検索

カウンターに備え付けられたコンピュータの端末機によっても図書の検索ができます。希望する場合は係員に申し出て下さい。

利用したい図書の書名や著者名がはっきりわかっている場合は、上記の蔵書目録で十分ですが、それらがはっきりしない時や、特定の主題に関する図書を探したい時などの場合は、コンピュータによる検索が有効です。蔵書目録のところで挙げた項目の他に、件名（主題を表わす名辞）、分類、ワード（書名中にある言葉）、請求記号、ISBN(国際標準図書番号)、図書番号(登録番号)等からの検索が可能です。さらに、各索引項目を組み合わせることもできます。例えば、書名中に「アメリカ」と「経済」という両方の言葉が入った図書はないか、というふうに検索すると、『アメリカの経済政策』

```
FIND KA:ナグメ,ソウキキ
* 26 1/ KA:ナグメ,ソウキキ
  2/ DISPLAY 1

項目 1
11. 請求記号: 910.268 十
12. 書名著者: 夏目漱石 作品の深層世界 坂本浩著
15. 出版事項: 明治書院 1979.4 / 460p 22cm
17. 注記: 図版

項目 2
11. 請求記号: 910.268 十
12. 書名著者: 夏目漱石 吉村善夫著
15. 出版事項: 春秋社 1980.9 / 360p 20cm
17. 注記: 新装版

項目 3
11. 請求記号: 910.26 34
12. 書名著者: 吉田精一著作集 4 吉田精一著
```

〈コンピュータによる検索の画面例〉

という図書がみつかるといった具合です。

検索用の端末機は当面1台しかありませんが、近い将来には数台増設する予定です。

(3)カード目録による検索

従来からのカード目録も用意しています。種類は書名目録だけです。和書は書名の50音順、洋書は書名のアルファベット順に配列されています。ただし、目録検索用の端末機が増設された時点でカード目録は廃止する予定です。

II. 図書資料の利用（貸出・返却等）

次に図書の館外貸出や返却、問合せ等の図書利用の実際について紹介しましょう。これらのサービス、業務は、手続きの迅速化、簡素化を図るためほとんどコンピュータ化されています。

(1)館外貸出

本館での利用登録時に交付する「図書利用カード」と貸出希望図書をカウンターの係員に提出して下さい。係員がカードと図書についているバーコードラベルをスキャナーでこすって利用者の番号と図書の番号をコンピュータに記録します。これで貸出手続きは終了です。ただ

貸 出		日付 26.03.05
利用者番号 [8500444]		貸出中 0 冊
図書番号	返却期日	
[8500000308]		
[8500000356]		
[8500000004]		
OKですか？ (YES:復改/NO:+))		
F1.貸出 F2.返却 F3.予約 F4.問い合わせ(図書番号)		BARCODE

＜貸出時の画面例＞

し、貸出可能冊数(3冊)を越した時や、既に借りている図書の返却が遅れている場合は自動的にストップがかかるようになっています。

なお個人の貸出記録に関するプライバシーの保護については十二分に考慮されています。個々人の利用者番号には、学籍番号とは全く異った図書館独自の番号を使用しており、利用者番号から個人を特定することは不可能です。また、図書が返却されるとただちに個人にかかわる貸出記録は消去されるようになっています。

(2)返却

館外貸出図書を返却する時は、図書をカウンターの係員に提出して下さい。係員が貸出時と同様に図書の番号をコンピュータに記録するだけで手続きは終了します。「図書利用カード」の提出は不要です。

返却期日の厳守は当然ですが、万一返却が遅れた場合は貸出停止になります。貸出停止期間は、返却延滞日数に相当する期間となります。例えば5日返却が遅れると5日間貸出停止になります。返却期日の厳守をお願いします。

(3)予約

貸出中の図書について予約することができます。蔵書目録等で予約したい図書の図書番号(登録番号)を調べ、係員に申し出て下さい。その際「図書利用カード」も必要です。貸出中であることが確認され、先に予約している人がいなければ予約を受付けます。1人5冊まで予約できます。予約した本が返却され次第その旨を掲示しますので速やかに取りにきて下さい。なお予約の取消しもできます。

予約や下記の問合せといったサービスは、従来の貸出方式では不可能でしたが、コンピュータ化することによってできるようになりました。ぜひ利用して下さい。

(4)問合せ

利用者自身が自分の貸出状況等を問合せることができます。「図書利用カード」を提出してその旨を申し出て下さい。現在何冊借りているか、返却期日はいつか、貸出停止はいつまでか、といったようなことを知ることができます。

また、求める図書が書架にない場合、他の人がすでに借りているか否か、貸出中ならば返却期日はいつかといったことを問合せることができます。もちろん誰が借りているかというようなことを問合せることはできません。予約と同様図書番号を調

べて問合せして下さい。

(5)その他

・統計

統計も従来より幅広くとることができるようになりました。以前からの蔵書統計、貸出冊数統計等に加えて、ベストセラーならぬベストリーディング(最も貸出が多かった図書)のリストなども作成する予定です。こういったものは図書の収集のための重要な資料となるでしょう。本誌でも適宜紹介する予定です。

・蔵書点検

従来はカードと図書一冊ずつを突き合わせて点検していましたが、今後はハンディタイプのスキャナーで図書のバーコードラベルをこするだけで確認できるようになります。

以上、新キャンパスの図書館について実際の利用面から色々紹介しました。施設、蔵書構成等については本誌の前々号、前号を御覧下さい。また『学生便覧』にも図書館の利用案内が掲載されていますので参考にして下さい。

信行寺大悲尊像縁起絵巻

竹居明男・西岡直樹

この絵巻1巻は、本学文学部の森浩一教授が東京の古書店にて見出され、このたび同志社大学図書館に収蔵されることになったものである。後述するように、その制作時期は天保9年(1838)で江戸時代末期であるが、今のところ類本がなく、また興味深い内容をもっているの、ここに概略を紹介させていただくこととした。

絵巻の大きさは縦25センチ、横970センチ。冒頭の「信行寺大悲尊像由来」という題名が示す通り(図1)、京都市左京区仁王門通新高倉東入北門前町に所在する信行寺(浄土宗)安置の観音菩薩像の流伝を主題とするもので、詞書と絵とが各5段づつ交互に配され、巻末に識語がある。いささか煩瑣にわたるが、詞書に従って、まずはその内容を箇条書きに整理して記してみよう。

〔第1段〕

- ① 延暦13年(794)、下野国(現、栃木県)都賀郡大慈寺の高徳俊才の僧広智は、壬生氏のある家に祥雲満ちているのを見出し、その時生れたばかりの子を、成長の後自分に与えるように両親と約束した。
- ② その子は9歳のとき父に死別したので、兄について勉強していたが、母親の方はかつての約束を思い出し、その子を広智の弟子とした。広智はその子をすぐに出家させて円仁と称させたが、その秀おぶりに感じて厚く教授した。

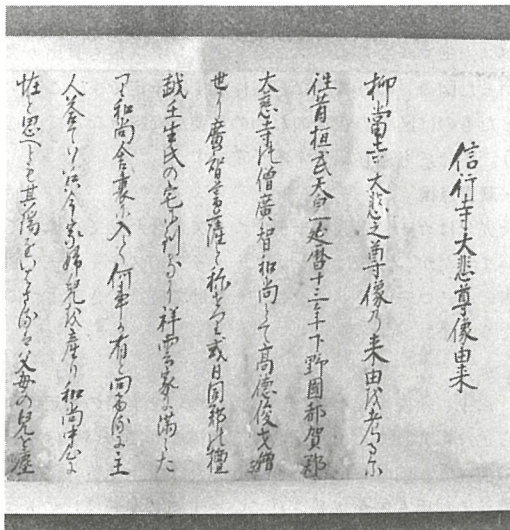


図1 詞書第1段(部分)

- ③ 大同3年(808)円仁15歳のとき、ある夜の夢の中で「叡山の大師」と会話したことを広智に告げると、広智はただちに円仁を伴って比叡山に至り、円仁を最澄の弟子とした。最澄は天台教学のこごとくを伝授した。
- ④ 弘仁4年(813)及び7年(816)の受戒後、承和5年(838)の遣唐使一行に加わって円仁は渡唐して修学。五台山に巡礼した。
- ⑤ そして日本に帰る途中で、逆風による難船と、漂流先での山賊の難とをいずれも法華経読誦の力できりぬけ、ようやく承和14年(847)九州大宰府に帰着した。
- ⑥ 翌承和15年(848)、円仁は入京してのち比叡山に登り、かつて天長10年(833)に草庵を結んで自ら書写した法華経を小塔に納め、また「大悲の尊像」を彫刻して安置した。その建物を如法堂といい、今の首楞嚴院がこれにあたる。そしてその尊像こそが、後世に伝えられて靈驗いちじるしい、信行寺の大悲尊像なのである。
- ⑦ 円仁は貞観6年(864)正月14日に入寂し、慈覚大師と諡された。

〔絵第1段——円仁が観音像を制作する様子〕

〔第2段〕

- ① 天安元年(857)に太政大臣となった藤原良房公は、賢君の誉れが高かったにもかかわらず、剣難の相があるとの博士たちの見立てがあった。しかし、北政所が慈覚大師より法華経を授かり、かつ、かねてより観音菩薩を深く信仰していた功德により、良房公は無事その生涯を白河の別荘に終え、貞観15年(873)忠仁公と諡された。
- ② 北政所は観音菩薩への信仰いよいよ厚く、ついに叡山首楞嚴院から例の尊像を白河の別荘に移置し、法華三昧を修するなど、日夜勤行怠りなかった。

〔絵第2段——白河の別荘の様子〕

〔第3段〕

- ① 承暦元年(1077)、白河天皇の発願により、京の東、忠仁公の別荘のあとに大寺院が建てられた。これが法勝寺である。
- ② 法勝寺には金堂・講堂・阿弥陀堂・薬師堂・五大堂

・法華堂・八角九重塔・常行堂・円堂・曼荼羅堂・小塔院など多数の堂舎が営まれ、それぞれに仏像などが安置されたが、かつて白河の別荘にあった観音像は、釈迦三尊像と共に講堂に安置されたのであった。

- ③ その年（承暦元年）12月18日、天皇行幸して法勝寺の供養が行なわれた。

〔絵第3段——法勝寺の伽藍の様子〕

〔第4段〕

- ① 康平元年(1058)3月18日、岡崎より出た火により、法勝寺諸堂は焼失の難にあった。しかし不思議なことに、講堂の観音像のみは仏所小路の街なかに置いてあり、とりあえず五大堂に入れられ、やがて傍の仮堂に安置された。
- ② 時は移って応仁元年(1467)8月、山名宗全・細川勝元の兵乱に法勝寺は一字も余さず焼失廃亡することとなった。
- ③ ときに武蔵国出身の僧元虚（もと内藤氏の嫡子正継）は近江国東坂本に草庵を結んで法華三昧を修していたが、ある日、故郷の母の大病に際して、法勝寺に参籠して件の観音に祈念した。するとたちまちに病は平癒し、元虚はいよいよ信心を深めた。
- ④ 元虚は、2月に始まった大乱に法勝寺の安否を気づかっていたが、8月のある夜、観音像が火中より飛出して赤山大明神の社の扉を開き入る夢を見た。
- ⑤ 赤山大明神は慈覚大師の遺命にて勧請したもので、元虚はとるものもとりあえず山を越えて赤山明神に詣で、ついで人びとのたち騒ぐ中を法勝寺に到り、炎の中から観音像をとり出した。このとき、雨のごとく襲来する矢は、不思議なことに一筋もあたらなかったの

である。

- ⑥ 元虚は無事に坂本の草庵に帰り着き、観音像をそこに安置した。

〔絵第4段——僧元虚が観音像を救出する様子〕

〔第5段〕

- ① さて、信行寺はもと摂津国西宮にあったが、開山順公上人のとき故あって京都三条通東洞院に遷り、天正17年(1589)には太閤秀吉の命で京極の東に移った。そこは今、中井氏の旧地である。
- ② 一方、当寺三世円壺上人は僧元虚の末孫で内藤氏の出身（正之の兄）であったが、元和3年(1617)に住職となるや、その大徳の聞えと、当寺本尊阿弥陀如来の靈験あいまち、人びとの参詣に絶えまがなかった。
- ③ 元和6年(1620)、疫病が大流行して犠牲者が続出したが、このとき円壺上人は寺内養寿院の僧恵闇と心を合せて、内藤氏ゆかりの坂本の草庵より例の観音像を迎えて法華経を読誦した。そして観音の姿を写して数千枚を人びとに施したところ、これを授かったものは皆、病を脱したのであった。
- ④ そののち宝永5年(1708)の洛中大火に遭い、当寺はこの年秋に今の仁王門通に移り、享保2年(1717)春には堂供養があって、観音像を脇壇に安置したのである。
- ⑤ まことに法華経は諸経の第一であり、なかでも観世音菩薩普門品は法華経二十八品の中の骨髄である。慈覚大師が入唐中の災難を免がれたのも観音の功德応現であり、帰朝後に造像されたものなるほどと思われる。そのような霊像であるから、数度の火災をもくぐりぬけて、災難消除・福寿延命の利益いちじるしいものが



図2 絵第5段(部分)

あったのである。

〔絵第5段——参詣者の群れる信行寺境内の様子〕

以上のように本絵巻は、慈覚大師円仁の手になる観音像が、数々の危難をくぐりぬけながらも一方で靈験いちじるしく、ついには信行寺に安置されて多くの人びとの尊崇を得るに至る物語を、ドラマティックに述べて絵解きしているのであるが、制作の事情も次に掲げる巻末の識語によって明らかである（新字体に改め、句読点・返り点を付す）。

此縁記一卷者信行寺中養寿院開基惠間和尚之所伝記也。宝永之火後、恐火盜藏倉庫。凡星霜百三十余年魚魯為所々虧減而文義不全。於是考監釈書明月記応仁記及所伝之古文書補正之、以再成章、復加図絵。鳴呼靈像之応現、利益之著如此。弥信心堅固、則当得現世安穩後世仏果者也。

天保九年戊戌冬日 山田道貞謹識

(印)(印)

すなわち本絵巻は、山田道貞が、詞書にも登場する「養寿院開基惠間和尚」の「所伝記」を基礎とし、これに「釈書」（＝『元亨釈書』）、「明月記」（藤原定家の日記）、「応仁記」及び「所伝之古文書」によって補正を加えて文を成し、その上に図絵を付したもので、天保9年に成立したものと知られる。今のところ山田道貞なる人物については未詳であるが、『国書総目録』によると『嘉永雜談』17冊（国会図書館蔵）、『光格天皇御登履之巻』（絵巻1巻、東京大学史料編纂所蔵）の著作があり、とくに後者は絵も道貞の筆とされているから、本絵巻も同様に詞書・絵ともに山田道貞の手になるものと思われる。

すでにみたように、本絵巻の詞書には若干の誤記なども含まれ（第4段①における康平元年は康永元年の誤まりと考えられること、その1例）、絵にも幾分素人的なところが見られる。しかし識語による限り、本縁起の原形は江戸時代のごく初期にまでさかのぼり得るし、類本も目下のところ見出せない。そしてまた5段の絵の中でも最末尾のそれは、多数の人物が軽妙洒脱に描かれ、独立した一幅の絵として見ても興味つきないものがある。

ところで過日、私たちは森浩一教授、校地学術調査主任鈴木重治氏、図書館整理課帆足正規氏と共に、左京区東山仁王門西北角に所在する信行寺を訪れたのであるが、御住職本多俊明師より、この絵巻の第5段①以下と一致する所伝があることをお聞きし、また、上來みてきたような縁起をになう観音菩薩像が、今も本堂（本尊は阿弥

陀如来像）の向かって左の脇壇に安置されていることを知ることができた。そして、絵巻中の、境内に群参する人びとを描く場面（絵第5段）で、本堂中央（賽銭箱のあるあたりか）より左方に参詣者が集中して描かれている様子は（図2）、あたかもその点と符合するものがあり、一同深い興味を覚えたのであった。

ちなみに、信行寺の寺地移転の歴史の中で、天正17年から宝永5年に至る「京極の東」時代の寺地は、詞書割注に「今中井氏之旧地也」とあるように、宝永5年の現在地移転後、京都大工頭中井家の屋敷地となったもので、実は新島襄旧邸（上京区丸太町寺町上ル松蔭町）がほぼその地点に所在しているのである。有名な寛永14年（1637）完成の「洛中絵図」（宮内庁書陵部蔵）の同地点には明らかに「信行寺」の名が読みとれるし（図3）、一昨年の新島会館建て替えに伴う発掘調査での出土遺物中に、信行寺所在時代のものと同推測される遺物も今後の検討によって見出されよう。

以上、当絵巻をめぐるさまざまな問題点についての詳細な考察は別の機会に譲ることとし、とりあえず新収資料としてここに概観を試みた次第である。

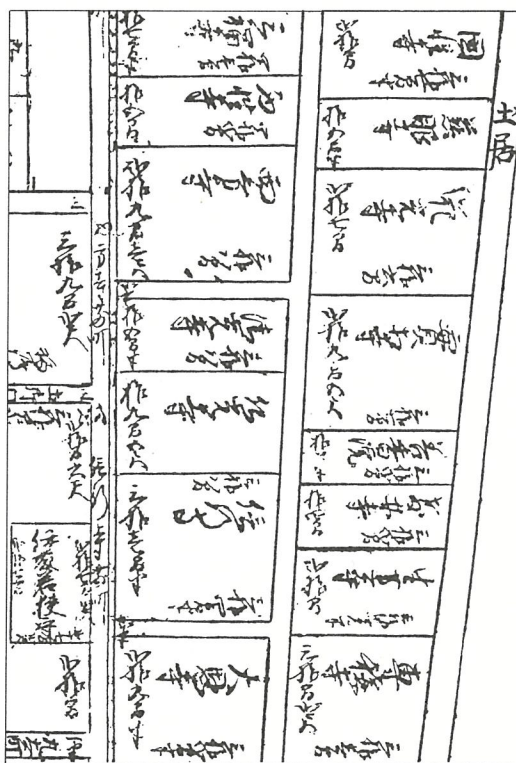


図3 「洛中絵図」(部分)

今出川図書館の検索方法が変わります

本学図書館では機械検索の時代に備え、1982年4月から機械入力を開始し1986年4月現在すでに約6万タイトルのデータをマーク化し蓄積しております。図書館利用者へのサービスを向上させるため、早期にオンラインによる目録検索システムを提供すべき時期にきていますが、漢字用端末機を始め計算機資源の準備とシステムの開発にかなりの期間を必要とします。現在、1989年度から機械検索のサービスを提供出来るよう準備しておりますが、当面機械入力を実施してきた結果として各種冊子目録を出力できますので、この成果をとりあえず活用していただきたいと思ひます。

したがって、1986年度から受入・整理した図書については閲覧用カード目録に替り、以下に説明致します冊子目録を発行し検索ツールとして活用していただくことになりました。

〈運用方法について〉

2週間毎に分類番号順の本編と毎月1回、書名索引(図1)および著者索引を発行致します。検索用ツールとしては書名と著者の索引を利用していただくこととなりますが、この索引は毎月1回累積しながら(但し、1年を単位とする予定です)発行致しますのでかなり有効に活用していただけるものと思ひます。

〈利用方法について〉

書名索引は目録中の標目となった書名、双書名、原書名等をABC順に配列しています。書名につづいて、《 》には目録中の著者記述の一番目を表記しています。次の()には請求記号を、-----につづく番号は文献番号になっています。〔 〕で表記した書名は統一書名(無著者名古典等)が被研究書となったものです。

↓著者記号
 刑法の機能的考察《平野竜一著》
 (326;H5-4)-----11331
 請求記号↑ 文献番号↑

著者索引は目録中の標目となった著者名(個人・団体・会議)をABC順に配列しています。著者名につづいて、《 》には目録中の書名を表記しています。次の()には請求記号を、-----につづく番号は文献番号になっています。〔 〕で表記した著者名は被伝者、被研究者を示しています。

↓書名
 柳田国男《地名の研究》
 (291.03;Y) 8350
 請求記号↑ 文献番号↑

以上が1986年度から発行します冊子目録の運用と利用方法の概略説明であります。書名と著者の索引に記載されていない図書の記述を必要とされる場合は、分類番号順の本編を利用することも出来ます。これにより今出川図書館の検索ツールは、整理された時期が、1964年までの図書は旧分類カード目録、1964年から1982年までの図書は新分類カード目録、1982年から1986年までの図書は新分類カード目録と冊子目録、1986年からは冊子目録ということになります。それぞれの検索ツールにより必要とする図書を検索し、利用手続に従い閲覧あるいは貸出手続を行って下さい。

冊子目録は検索ツールとして新たに利用していただくこととなりますが、オンラインによる目録検索システムのサービスを提供できるまでの間、これまでのカード目録と共に有効に活用していただきますようお願い致します。

A f u r i k	A j i a n
アフリカ諸国における経済自立《アフリカ研究会編》(332.84;A4;2)	3594
アフリカ諸国の経済開発《藤田弘二編》(332.84;A5)	3595
アフリカ植民地化と土地労働問題《星昭編》(334.74;A2)	3820
アフリカ植民地における資本と労働《山田秀雄編》(334.74;A)	3818
アフリカ植民地における資本と労働《山田秀雄編》(334.74;A;2)	3819
The age of birds. 《A. フェドゥンア著》(488;F)	6175
The age of chivalry. 《ブルフィンチ作》(933;B4)	9475
Ages in chaos. 《I. ウェリコフスキー著》(209.3;V3;1)	1398
Ages in chaos. 《I. ウェリコフスキー著》(209.3;V3;2)	1399
L'agricoltura in Italia tra sviluppo e crisi. 《グイド・ファビアーニ著》(612.37;F)	7123
アイアコッカ《リー・アイアコッカ著》(335;I9)	3850
愛知大学経営会計研究所叢書《管理会計》(336.8;S53)	4010

(図1) 書名索引(抜粋)



中野譜庫の意味・内容・経緯

中野二郎

昨年10月2日、名古屋在の音楽家、中野二郎氏より同氏所蔵のギター、マンドリン関係の楽譜約1万2千点を中心とするコレクションの寄贈を受けました。

氏は明治35年4月10日のお生れで、愛知工業学校函案科を卒業され、名古屋工業高等学校に進まれたが、ギター、マンドリンに興味を持たれ、1年で同校を中退、以後独学でギター、マンドリン音楽を修得されました。大正末期頃より、独奏者、マンドリン合奏の指揮者としてステージや放送で活躍され、また、作曲、編曲も多数あり、童謡にいたっては数百曲の作品があります。その内、イタリアで出版されたものもありますが、1954年、ギター独奏曲「パガニーニの主題による30の変奏曲」が、国際ギターコンクールの作曲部門に入選されました。

昭和20年よりNHKの名古屋放送管弦楽団の指揮者となられ、昭和38年、同志社大学マンドリン・クラブより請われて、以後59年に引退されるまで22年にわたって同クラブを指導されました。

氏のコレクションは65年間の収集の成果で、海外より直接取り寄せられたものを多く含んでおり、質量とも世界でも有数のものといえます。氏は今後このコレクションが、散逸したり、あるいは個人に死蔵されたりすることの御心配より、恒久的機関での保存・利用を希望され、本館への寄贈となり名称を「中野譜庫」としました。



現在、氏作成のカード目録と冊子目録をもとに整理作業を続けていますが、終了まで1年ほどかかりそうです。尚、本年度末には「中野譜庫目録」を刊行の予定です。

今回、中野氏より譜庫の内容について寄稿されましたので以下に御紹介いたします。

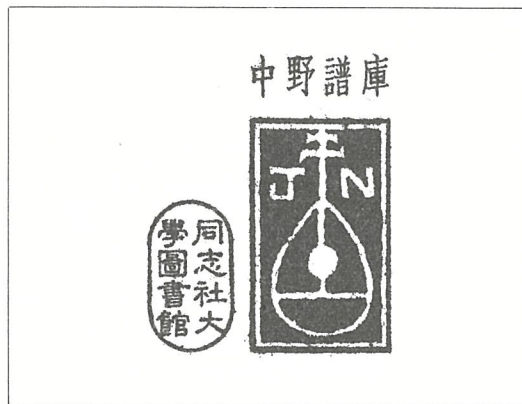
文庫の類は蒐集人が亡くなれば、関心の薄い遺族の手に渡るか、他の個人に譲渡されて、多くの場合門外不出の運命に逢着する。マンドリン・ギター譜庫に限っても武井文庫、アルモニア文庫然りで、死蔵されたのでは蒐集の意味が全くなくなる。

マンドリンとギターは今日では親しく並び称されているけれども、それは今世紀に入ってからで、元来歴史はギターがずっと古くマンドリンは新しく、辿った道は全く異っている。然し19世紀後半からマンドリン・オーケストラが生まれて、同じフレット楽器なるが故にギターが仲間入りするようになり、今日では切っても切れない仲になっている。又一方でギターはギターで独自の世界に発展もしている。

ところが両楽器とも日本では公立の音楽学校で正課に入れられていないので真剣にこの音楽に取り組む人がいないのである。19世紀半ばから今世紀初めにかけてイタリア、フランス、ドイツを中心にあれ程マンドリンが栄えた事実は其処に必ず愛好される根強い何物かがあった筈である。ヨーロッパを中心にマンドリンギターに関する

出版の状況を見ても明らかである。イタリア・ミラノの大出版社リコルディのマンドリン楽譜出版目録は今世紀初めこの一社だけで万種を越えている。

にも不拘前記の理由で音楽学校にも図書館にもマンドリンとギターの楽譜は所蔵されていない。真の発展が期待出来ないのはこの両楽器が、之で生計を立て得る社会的な道が開けていないのに最大の原因がある。所謂素人



蔵書印

の手遊び以上になれないのである。然らばその音楽そのものに魅力がないのであろうか。その謎を解くのが本譜庫の使命と云ってよいと思う。

* * *

内容についてはマンドリンの方では最盛時（1900-1940）ヨーロッパ各国で出版された月刊楽譜雑誌で『Il Plettro』（1906-1943）、『Il Mandolino』（1892-1937）、『Il Concerto』（1897-1931）、『Vita Mandolinistica』（1901-1911）、『Mandolinista Italiano』（1915-1938）、『Il Mandolinista』（1900-1905）。以上イタリア。『Mandolinismo』（1921-）。スイス。『Het Ned. Mandoline Orkest』（1926-1929）、『De Mandolinegids』（1919-1944）。オランダ。『L'Estudiantina』（1905-1934）、『Le Plectre』（1903-1925）、『L'Orchestre a Plectre』（1934-1939）。フランス。『マンドリンとギター』及『マンドリンギター研究』（1916-1943）、『アルモニア』（1927-1941）、『フレット』。以上日本。『Fretted Instrument News』（1932-1957）。アメリカ、等多種類に亘る。『イル・プレットロ』、『レステュディアンティナ』等毎号論説報導を掲げたものもあるが大半楽譜のみのものが多い。

Ricordi, Bratti, Venturini, Carisch, Forlivesi, Vizzari, Commelini 等の出版は楽譜の表紙はカラー印刷で豪華なものも多く、之らは珍しい。筆者が始めたのが第一次欧州大戦終結直後で既にマンドリンの祖国イタリアは戦後の疲弊した時期であったので集ったものが数ある。

ギター誌の方では『現代ギター』が創刊号から揃っており、英国の『ギターニュース』もほぼ揃っている。スペインの『ビプリオテカ・フォルテア』、フランスの『唄とギター』、ブラジルの『ギターと巨匠』、イタリアの『ギター芸術』は揃ってはいないが見るべきものがある。1828年 Whistlingの著した『Handbuch der musicalisch Literatur』の復刻版は永年垂涎の書で著者は復刻前に苦心三嘆して南葵文庫から写しとったものであるが、この書を見ると19世紀初頭如何にギターが隆盛を極めたかが一目瞭然とする。筆者は主としてこの書に基いて「十九世紀初頭のギター譜庫」と題して現代ギターに年余に亘って連載したが、本譜庫の面目は之らに載っている古典ギター曲作家の古色蒼然たる初版譜の蒐集にある。今日では欧州の古い音楽図書館に見るくらいで稀に個人蒐集家の手に在るくらいである。Weinmannの手になる当時Wienの出版社 Artaria, Haslinger, Mechetti, Hofmeister其他多数の出版社別出版目録、今では貴重中に入る。作者としてはM.Giulian, F. Sor, D. Aguado, F. Carulli, M. Carcassi, L. Legnani, J. K. Mertz, F. Molino 等の古典作家が主で現代物は余り含まれていない。

* * *

筆者が集め出したのは1920年からで65ヶ年になる。楽譜も碌に読めない時から、三度の飯を本当に二度にして購入したのがあり、武井文庫の様に大八車で搬入したのとは大変な違いである。随分と面倒な経緯を辿った楽譜があり、註文楽譜の到着で資金に困り、再度入手可能の楽譜を友人に安く買って貰い、後で又高価に譲って貰ったもの等もある。関西でドマーニ・クインテットを主催していた松井竜三、神戸でプレットロ楽譜店を開いて



いた萩原広吉、東京の河合博、名古屋の竹内真一から譲り受けたマンドリン譜には珍しいものが多い。ギターの方ではボーンから直接入った古典作家の初版譜（シャンドの使用したもの）、小越達也のもの、川瀬晃の蒐集譜、近年ブラジルの蒐集家デュバル氏から贈られたカルリ、カルカッシ、モリーノ、ロイエのギター二重奏曲は珍らしくメルツの自筆譜コピーも珍重すべきものであろう。この外同志社大学MCのOB指揮者岡村光玉君の苦心蒐集したマツオーラのマンドリン曲デュディチの作品、ギリシャのニコラス、ラウダスの自筆譜コピー等も珍しい。

猶マンドリン、ギターの教則本・練習書の類は余り心懸ける人は少ないので珍しいものがあり一見に価する。

* * *

マンドリンギターに関する楽譜資料一切を同志社大学図書館に寄贈して、友人から一様に淋しいだろうと云われているが案外すっきりしている。虚脱状態を脱して何か生き甲斐を見付けたいと思っている。先輩同輩凡て故人となり少々生き過ぎたと云う感慨は拭い切れない。

実例を中心とした

資料のさがし方—29—

近年、本館においても新聞の利用が増えて来たようです。参考図書室には「朝日新聞」、「日本経済新聞」、「京都新聞」3紙の縮刷版を配架していますが、スペースの関係上数年分のバック・ナンバーしかありません。従って、過去のものや他紙の利用については「請求票」をカウンターに出して書庫より出してもらわなければなりません。この場合、目的の記事の掲載紙、年月日を確認していないと「請求票」に記入できませんし、無駄が生じることもあります。

今回は、国内主要新聞の記事のさがす時に使う資料について紹介いたします。

〔質問例 1〕

「忠犬ハチ公」の死亡記事を見たい。

〔調査〕

とりあえず百科事典を見る。「大日本百科事典」(JAPONICA)に「忠犬ハチ公」の項があって、「……教授の死没後もその帰りを待って、36年(昭和11)に死ぬまで渋谷駅を離れなかった」とあるが月日までは分らない。同項に「戸川幸夫の小説『忠犬像紳士録』にも扱われた」とあるので、著者目録(カード)を検索すると「戸川幸夫動物文学全集」第4巻に同小説が収められていることが分り、それを読んでみる。小説なので、主人公も「忠犬ロク公」となり、飼主の名前も変えられているが、「遂に昭和10年3月8日の早朝……静かに死んでいった」とあった。しかし、百科事典では昭和11年であるが、小説では昭和10年となっていてどちらか分らない。年表を当る。

「近代日本総合年表 第2版」(岩波)の索引をさがすと、「忠犬ハチ公 1935-3C」(注、1935年、3月、社会欄)とあり、本文を見ると「3. 8 忠犬ハチ公死ぬ 3・3198」とあった。百科事典の方にミスがあったようだ。尚、末尾の数字は典拠文献の番号で、3は「東京朝日新聞」、3198は「銅像碑文」のこと。「東京朝日新聞」をさがすと、3月8日にはないが、3月9日に記事が掲載されていた。

〔解説〕

まわりくどい検索経過を紹介しましたが、著名事件であれば百科事典や歴史事典で解決することが多々あります。戦前の記事については索引類が少ないので、まずは年表類を調査することをおすすめします。

○「近代日本総合年表」〔210.6; I 4-1a〕

収録期間は1853年(嘉永6)～1983(昭和58)の間。〈政治〉〈経済・産業・技術〉〈社会〉〈学術・教育・思想〉〈芸術〉〈国外〉の6欄から構成されており、1年分を2ページに収めている。事項索引があり便利だが、特筆すべきは本文に記載された事項に典拠文献の指示があること。巻末に典拠文献の出典番号一覧表があるが、4,153点もあり、各種新聞はもとより「現代史資料」等の史料類を収めており、事件の詳細を知りたい時に非常に役に立つ。近代史の調査にあたって欠かせない参考図書と言える。

〔質問例 2〕

80年代の政治資金の動きについて新聞記事を追ってみたい。

〔調査〕

「読売ニュース総覧」1980年版で「政治資金」の項を見ると、ほぼ1ページ分に1年間の関連記事の概要と掲載日・面が収められている。あとは他の年版をさがせばよい。「朝日新聞」縮刷版記事索引では「政党」の項に政治資金関係記事が収められている。但し、これは月単位で検索する。1つの新聞にしぼるか、あるいは他紙の記事と比較するかは調査方法によって変わるかも知れないが、記事によっては同内容のものが他紙にも掲載されているので、1つの新聞に掲載された日付で他紙の記事をさぐることもできる。

〔解説〕

新聞記事をさがす時、ある事件の記事をさがす場合の他に、特定のテーマあるいは人物・団体に関する記事をさがす場合がありますが、いずれも手がかりとなるテーマやキーワードを精選し、次に紹介する記事索引等を有効に利用してください。

○明治ニュース事典〔071; M2〕

「毎日新聞」の前身、「東京日々新聞」を基礎に、日刊新聞発刊以前の諸新聞・日誌類、さらに「東京日々」以外の有力日刊新聞から、明治という時代の特色を有した記事を優先することを基本方針とし、選択収録したものの。原則として、記事全文を掲載している。記事の内容による見出し語の50音順に配列し、各見出し語の中は記事見出し、掲載年月日、新聞紙名と記事を年月日順に配列している。索引は、見出し語を50音順に配列した一般索引とは別に、政治・経済といった主題別に配列した分

類別索引と、年次・月別に配列した年次別歴史索引を取
めている。全8巻の予定で、第1巻(慶応4～明治10)
以外は5年毎に分冊。

○朝日新聞記事総覧〔P 071; A 6〕

大正8年創刊の「東京朝日新聞縮刷版」(昭和15年9
月より「朝日新聞」に誌名を統一)の各月巻頭の「記事
総索引」を集成したもの。収録期間は、大正8年7月～昭
和33年12月で、大正編全3巻、昭和編全6巻、昭和戦後
編全5巻に分冊されており、それぞれ別巻として人名索
引を付している。

○戦後国内重要ニュース索引〔039; K〕

収録範囲は昭和20年8月～41年6月。

政治・経済・社会を中心に、戦後の重要事件の簡単な内
容と発生日月日を取めたもの。特定の新聞に対する索引
ではないので、発生日月日を知ることによって当時の新聞
・雑誌を調査する。記載は件名(項目の見出し)、事
件の記述、発生日月日の順。芸術・スポーツ・娯楽に関
するものは、ほとんど除外している。

○ニュース・イヤブック 一朝日新聞の記事と抄録—
〔P 071; A 5-2〕

収録範囲は昭和48年～50年。

「朝日新聞」の1年間の記事と、おもな広告の索引・抄
録誌。各記事を見出し語のもとに集め、見出し語を50音
順に配列し、記事の抄録と掲載月日を取めている。広告
索引は1段以上のスペースを占めるものを対象としてい
るが、出版広告は大小にかかわらず採録している。49年
から人名見出し語を独立させ、一般索引・人物索引・広
告索引の3本立となっている。

○毎日ニュース事典〔071; M〕

収録範囲は昭和47年～54年。

「毎日新聞」の1年間の記事の抄録を取録。見出し語を
50音順に配列し、抄録と掲載月日を取める。
人名索引あり。

○読売ニュース総覧〔071; Y〕

収録範囲は昭和55年～現在

「読売新聞」の1年間の記事の抄録を取録。見出し語を
50音順に配列し、抄録と掲載月日を取める。ニュース記
事を主体とした「一般索引」のほかに、企業ニュースを
企業名から検索できる「企業索引」、連載記事をまとめた
「連載索引」、人名のもとに関連記事をまとめた「人
名索引」を取めている。

○会社・産業ニュース索引〔P 071; N-2〕〔P 071; N-3〕

収録範囲は昭和47年～現在。

「日本経済新聞」、「日経産業新聞」の索引誌。

昭和48年下期版から、「日経産業新聞」の創刊により、
両紙の合併索引誌となる。昭和49年より季刊。「会社ニ
ュース」は会社名の50音順に配列し、簡単な記事の内容
と掲載紙・月日を記載。巻末に産業・業界の分野別にま
とめた「産業ニュース」を取めている。

○新聞・雑誌記事カタログ〔P 070.1; S 15〕

現在昭和56/57年版のみ発行。

新聞編・雑誌編・ガイド編に分冊。新聞編は、主要13紙
を取録。各紙毎の記事タイトルを発行年月日順、頁順に
配列したもの。ガイド編は記事の内容を表わすキーワー
ドを人名、企業・団体、事項の3種に分けて、それぞれ
50音順に配列し、本文の紙名と記事番号を付している。

○発言者カタログ〔P 070.1; S 16〕

現在昭和56/57年版のみ発行。

前項の資料と同様のものであるが、主要新聞(13紙)・
雑誌に発言および執筆した人々の記事を取めたもの。事
項索引、人名索引、企業・団体名索引よりなるガイド編
と、発言・執筆者名の50音順に配列した発言者編に分冊。

○年刊人物情報事典〔281.03; N 9〕

収録範囲は昭和55年～現在。新聞は13紙を取録。各分
野別に人名を50音順に配列し、略歴・住所を付して掲載
された記事タイトルと紙誌名、(巻号)、年月日を取めて
いる。

○新聞社説索引集〔027.5; S 15〕

昭和55年版より発行。

朝日、読売、毎日、サンケイおよび日本経済新聞の1年
間の全社説記事の索引。

社説を取扱われている内容にしたがって31の分野に分類
した「分野別索引」と、社説内で言及された人名ないし
は団体・機関名を国内・外に分け50音順に配列した「人
名別索引」、「団体名別索引」との3部より構成。

○「新聞集成明治編年史」〔210.6; S〕

「新聞集成大正編年史」〔210.69; S〕

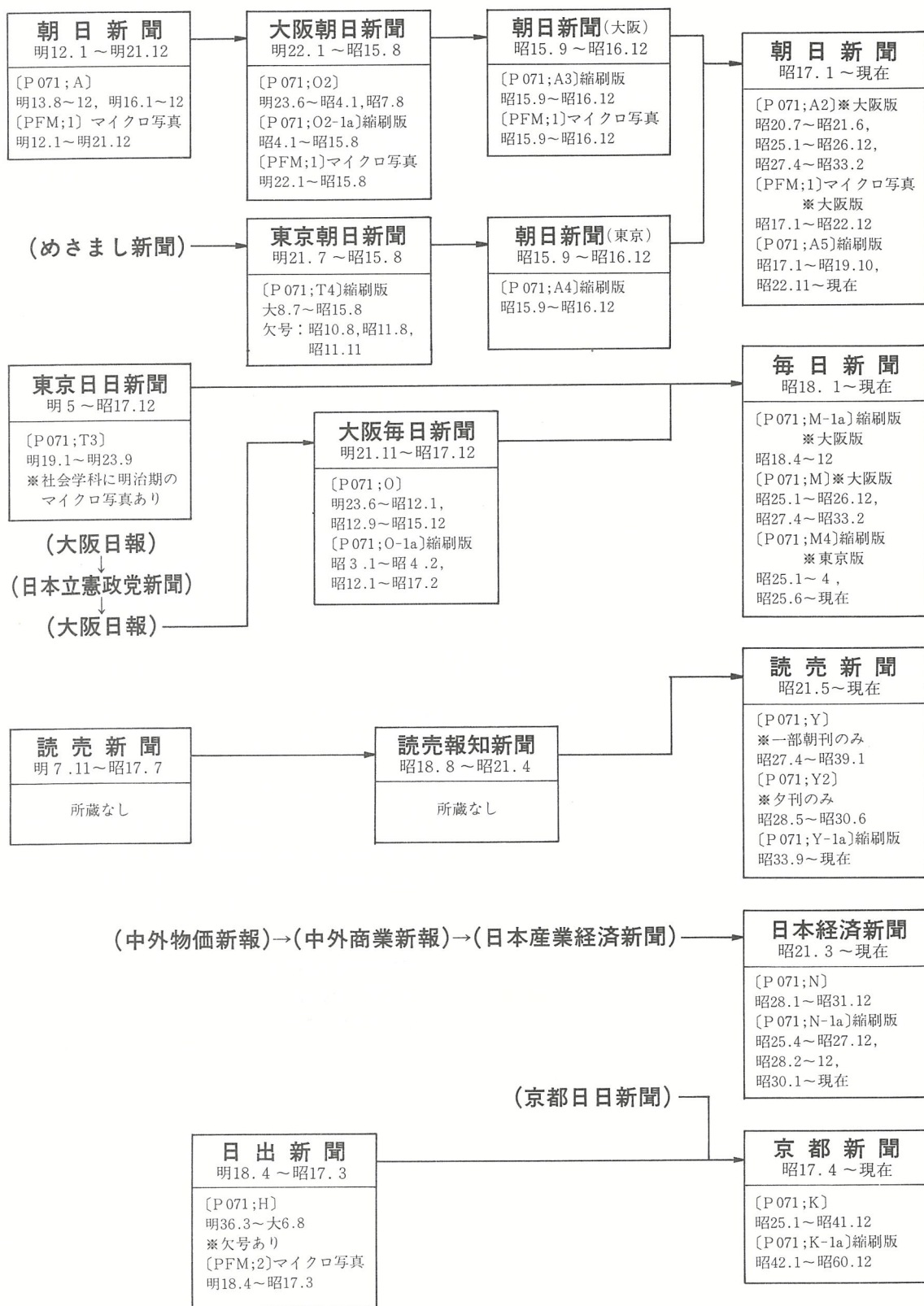
「新聞集成昭和編年史」〔210.7; S〕

文久2年以來の中央・地方紙多数から、資料的に重要
な記事そのものを、あらゆる分野にわたって収録したも
の。それぞれ年月次順の目次があるが、明治編年史はそ
れを分類別に分けており、さらに明治編全巻を対象とし
た項目の50音順による総索引巻がある。

以上主な資料を挙げましたが、最近の新聞記事を探す
資料として、「朝日新聞縮刷版」の毎月号の記事索引を
コピーしたものをファイルして参考図書室に配架してい
ます。過去約10年のものは年単位で製本しています。

主要5紙の変遷

※下段は請求記号と図書館の所蔵状況



「特別研究図書費」による購入図書(2)

—より一層の共同利用を—

1984年4月より新たに設定された「特別研究図書費」による図書購入も2年目を迎えました。

研究資料費は、学部教員用としての学部図書費、研究所の図書費、学部教育研究助成費、個人研究費、にこの「特別研究図書費」が法・経・商の学部図書費のほば一学部相当分になります。

この「特別研究図書費」の持つ意味は、単に研究資料費が一学部相当分増額された、というだけではなく、もっと別の大きい意味があります。

従来研究資料費は部科別配分(学部図書費・研究所資料費)や個人別配分(個人研究費)であり、資料収集は部科毎縦割りであり、様々な問題をはらんでおりました。いわく、高額大型資料の収集は困難である。(「文部省私立大学研究設備整備費等補助金に係る研究設備」の「特定図書」の補助金申請という制度があるとはいうものの、交付されるとはかぎらない。)また、各学部学科・各研究所に利用がまたがるような資料も集められにくい。さらに、専門課程が設置されていない分野の資料も、少し高額になれば不可能に近い、等々であります。そして可成り高額な資料でも、重複が生じやすく費用効率の点からも問題があったと言えます。

そこで、上記のいろんな問題点を少しでも解消できるよう、「特別研究図書費」が設定され、共同利用の観点から、図書館が収集の窓口となって運用し、資料の所蔵保管の任に当ることとなりました。^(注1) これにより図書館は研究図書館としての機能をより発揮できるようになりました。

1985年度内に同図書費で購入した図書資料は下記の通

りです。他の図書資料と同様、所属身分等にかかわらず、広く利用が期待されるところであります。

ただ、リストでお判りいただけるように、図書資料の内には、本来なら「禁帯出」となるものも含まれております。(マイクロフォームのもの等)。しかし図書館で所蔵保管することにより、利用上著しく不便になることのないよう、「特別研究図書費」による購入図書資料に限り、特別の配慮をしなければならない、と考えております。

また、このリストは、関西四私大(関西・関学・立命館・同志社)の取書情報連絡会においても、四大学それぞれ同様なリストを交換し合い、累積して一冊のリーフレットにまとめられております。したがって関西四私大の相互利用にも拍車がかかるのではないかと思います。同リーフレットは、1986年度「特別研究図書費」により図書の購入希望を募る時に、重複購入を可能な限りさけるためにも、配布し、ご利用いただけるようにする予定です。

^(注1)「資料の保管場所は原則として図書館とする」(特別研究図書費の運用要項「資料の保管」)ののですが、特別な事情がある場合、例外的に扱っております。本年度購入資料の内、10番がそれに該当します。これは体育より購入希望が出されたものですが、田辺校舎に移ることになっているため、当該研究室に所蔵していただくこととしました。

^(注2)*印を付した資料は文部省の「研究設備」の助成金の対象となったものです。

1. Archiv für Theorie und Praxis des Allgemeinen Deutschen Handels-und Wechselrechts, hrsg. v. F. B. Busch, Bd. 1 -48 Gen. Reg.1-37 [325.934;A4] vol.1-26 [P 930.3;F, F2]
2. *Beiträge zur Erläuterung des Deutschen Rechts, in Besonderer Beziehung auf das Preussische Recht mit Einschluss des Handels-und Wechselrechts, Jg. 1-73(1857-1933) [P 322;B, B-2, B2, B3]
3. *Bibliotheca Shakespeariana: The Mirror of the English Renaissance Studies, Classical & Modern Criticism. 6 in 30 units. (microfiche) [整理中]
4. CIS US Congressional Committee Hearings Index, 23rd-68th Congresses (1833-Mar. 1925) [027.2;C2-2]
5. CIS US Set Index 1789-1969 [027.2; C2] [P 100.3; M]
6. Fraser's Magazine, vol. 1-80(1830-70), new ser.,
7. Gewerblicher Rechtsschutz und Urheberrecht, Internationaler Teil, Jg. 1948-77 [P 328;G4]
8. Histoire Littéraire de la France, tome 1-41(1865-1981) [950.2;H6]
9. ILO 年次総会資料集—議題別報告書, 総会議事録, 1919-1983 100 reels [366.06;K2]
10. 医学中央雑誌, 第1—88, 165—254巻(明治36年—昭和19, 36—45年) [P 490.1;I](体育)
11. Internal Revenue Service: Cumulative Bulletin, 1919 (V.1)-1984 [P 345;I]
12. 古典文庫(既刊分 no.1-462, 別冊 計469冊)
13. Mind, vols. 1-29, 38, 51-61, 73-87(1892—1978)
14. 明治・大正・昭和教育統計資料, 明治15—45年

- 80reels, 大正2—昭和20 120reels [FM; 9,10]
15. National Inventory of Documentary Sources in the United States, Pt. 1: The National Archives & Records Service, The Presidential Libraries, Smithsonian Institution Archives (microfiche) [029;C]
16. 大蔵省主税局統計年報書, 明治期 第11—38回(明治17—44) 58分冊 [359.34; SS-SS3]
17. Papers of the American Board of Commissioners for Foreign Missions: - unit 1; Letters to Foreign Correspondents 1843-1919. unit 3; Missions to Asia, 1827-1919. [FM; 8]
18. レオナルド解剖手稿 全3巻 別冊1 [491.1; L2-4]

19. Social Casework (Formerly: The Family), vol. 1-62 (1920-81) [P369; F2, J, S7]
20. Statistik des Deutschen Reichs, N. Folge Bd. 1-601 (1884-1944) [整理中]
21. スペイン・ラテンアメリカ関係文書コレクション:- Coleccion de Documentos para la Historia de España, vol. 1-113 (1842-95) [236; C5] Coleccion de Documentos Ineditos Relativos al Descubrimiento, Conquista y Organizacion de las Antiguas Posesiones Españolas en Ameica y Oceania, vol. 1-42 (1864-84) [253.03; C5]

この度、1982年4月(書誌データの機械入力開始時)から1985年3月末までに受入・整理した資料を収録した「同志社大学所蔵図書目録」を刊行することになりました。この目録には、洋書21,691タイトル、和書33,310タイトルが収録されており、合計頁数は5,623頁で6分冊により構成されています。今回刊行致しましたものは従来の「蔵書目録」と異り、機械入力によりMARC(機械可読目録)化したものから冊子体形式で漢字プリンタにより出力していますので、検索用ツールとして有効に活用していただけたらと思います。

現在、情報化社会と言われている状況の中で、学術情報は急速に増大しており、また、学術研究の進展に伴い学術情報は、その範囲、内容、形態も多様化しております。このように多量かつ多種多様な情報をタイムリーに利用者に提供できるようにすることが強く求められています。本学では、目録システムの開発をはじめ、図書館業務のトータル・システム化を実現し、図書館利用者へのサービスを向上させるため努力しております。

目録システムは、図書館業務機械化の中心になるものでありますが、本学では1982年4月から機械入力を開始し1986年4月現在すでに約6万タイトルのデータをMARC化し蓄積しております。この成果として今回約3年分の冊子目録を刊行することができました。

現在、図書の検索用ツールとしては、カード目録がまだ多く用いられておりますが、その編成作業には多

くの労力を要すること、また、多量の情報をタイムリーに多様な形態で検索できることが求められる今日では、漢字端末機を用いオンラインにより検索するシステムへ移行して行く状況にあり、本学でも田辺図書館ではすでに同システムを用意しております。

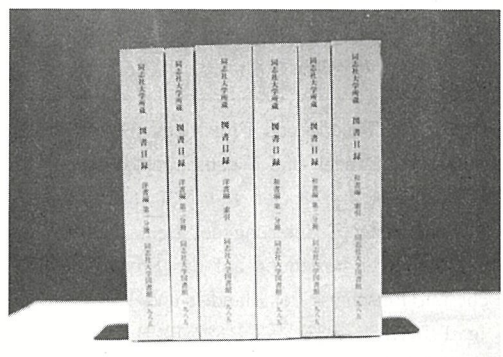
もちろん、これまでの資料をすべて機械入力することは困難ですので、これまで編成して来たカード目録は今後も有効に活用しなければなりません。

今出川図書館でも早急に機械検索システムを実現すべき準備を進

めておりますが、システムの開発にまだかなりの時間を必要とします。オンラインによる検索システムを提供できるまでの間、冊子目録を活用していただきますようお願いいたします。

なお、今回は3年分を刊行致しましたが今後は年単位で刊行する予定にしております。

図書目録の刊行について



“びぶりおてか”

同志社大学図書館報 No.39 1986年4月1日発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971

編集責任者 西田逸郎 (図書館庶務課長) 印刷正文堂